

第8回

情報通信審議会 情報通信技術分科会

ITU部会 電気通信システム委員会議事概要

1 開催日時及び場所

平成 27 年 4 月 23 日(木) 13:30～14:30

於、総務省 第3特別会議室

2 出席した委員及び専門委員(敬称略)

平松 幸男(主査)、前田 洋一(主査代理)、相田 仁、植松 友彦、岡村 治男、
加藤 圭、厚東 肇、島田 与則、高田 芽衣、高橋 玲、武本 昌代、内藤 悠史、
永沼 美保、日高 邦彦、宮地 悟史、森田 純恵、森田 直孝、山條 朋子

3 事務局

松井 俊弘(通信規格課 課長)、成瀬 由紀(通信規格課 国際情報分析官)、
羽多野 一磨(通信規格課 課長補佐)、守山 喜子(通信規格課 専門職)、
塩崎 充博(電気通信技術システム課 課長)、影井 敬義(電気通信技術システム課 課
長補佐)

4 議題

- (1)主査代理の指名
- (2)ITU-Tの活動状況
- (3)ITU-T SG13 4月会合の5G関連対処について
- (4)ITU-T レビュー委員会及びTSAG会合について
- (5)その他

配布資料

- 資料8-1 ITU部会電気通信システム委員会構成員一覧
- 資料8-2 ITU-T活動状況
- 資料8-3-1 ITU-T SG13の5G関連対処方針

資料8-3-2 ITU-T SG13への提出寄書

資料8-4-1 レビュー委員会対処へ向けた論点について

資料8-4-2 ITU-T再編に関する動向調査

5 議 事

(1)主査代理の指名

平松主査より、前田氏が主査代理に指名された。

(2)ITU-Tの活動状況

資料 8-2 に基づき、事務局より説明。

(3)ITU-T SG13 4月会合の5G関連対処について

資料 8-3-1 及び 8-3-2 に基づき、電気通信技術システム課より説明。

主な質疑応答は以下の通り。

○:4G は既に終わったのか。3G を議論していた時は、SG19 が所管しており、それが SG13 に統合された。その延長で 4G も SG13 が所管してきた。SG13 は、3GPP がまとめたものを追認するような役割に見えたが、5G では巻き返そうということはあるのか。

○:5G については、IMT2020 という冠をつけて、3G、4G でできなかった新しい将来像を求めるもの。これは無線の領域だけでなく、ITU-T と ITU-R が一体的に取り組もうという新しい試み。3G、4G の拡張という連続性は当然考えつつも、これに追加して、さらに多くの異種アクセスを包括するのが IMT2020 の構想である。5G に関するフォーカスグループ設立は、この点のITU-TとITU-Rのギャップアナリシスを行うものとしての位置づけ。

○:(5G の FG 設置に関する)本提案に対して、欧米は距離を置いていると考えるが、欧米のコメントはどのようなものか。

○:本日時点での速報では、「既存の課題や他の標準化団体の活動と連携し、重複を避けるべき」「検討期間について 24 ヶ月との提案は長すぎるので、期間を短くすべき」などといったコメントがあったと聞いている。

(4)ITU-T レビュー委員会及びTSAG会合について

資料 8-4-1 に基づき事務局より説明。続いて、資料 8-4-2 に基づき前田主査代理より説明。

主な質疑は以下の通り。

- :ITUのように大きな組織になるとビジネス効率等が強調されるが、一方、全権の決議 71 には ITU-T の作業の目的の最優先課題は途上国との情報格差の縮小が言われており、日本提案の中にこの視点を入れていくことも必要。
- :地域グループが設立されている SG もあり、この地域グループをいかに活用するかという課題が 1 月のレビュー委員会で持ち上がった。この地域グループへの対応について皆様のご意見を反映できる提案やコメントができれば意味があるのではないかと。
- :TTC の調査結果の報告をいただいたが、この内容は各 SG には示されるのか。
- :各 SG の議長、副議長にフィードバックして、その結果をまとめるというのが今後 1 年程度の作業になるかと思う。ほとんどの議長がこの内容について気にしており、その結果、エディターの数がかなり増えた。
- :今回、TSB 局長や事務総局長が交代したが、我々の議論の背景情報として、選挙職関係や方針等について知ってべきことはあるか。
- :欧州には ETSI 等の既存の団体があり、米国も ITU-T は民間主体と位置づけられているところがあり、欧米は、そこまで ITU を盛り上げようという雰囲気がない。
- :新しい ITU-T 局長、事務総局長はそれぞれ韓国、中国の方が努めているので、全体で盛り上げるためにも日本の協力というのは非常に期待されている。3、4 月に両名とも総務省を訪問したところ。両国とうまく連携しながらも、かといってアジアだけで進めてもうまくいかないで、うまくバランスを取るのが重要なポイントと認識している。

(5)その他

次回会合の開催時期は、今後のITUの動向等を踏まえて主査と相談の上調整する旨、事務局より説明。

以上